

学部紹介

Introduction of Faculties

商学部 Kさん

志望動機

幼少期より数字への漠然とした興味があったものの、小中9年間を通じて理科とはどうしても相容れなかったため、高校に進級する段階で文系、かつ数学を多用するだろうと思われる商学部を志しました。そして、商学部界では一橋大学が最高峰であるということを知ったため、一橋大学商学部を目指すことに決めました。

受験期を振り返って

自制心がある性格とはいえなため高頻度で予備校の自習室を利用し、他人の監視下に身を置いて勉強していました。また、自宅で勉強する時は、家族のいるリビングルームにスマホを置き、全ての電子機器から離れた状態を作って自室で勉強に励みました。ただ、娯楽の時間を完全になくしたわけではなく、勉強の合間や一日の終わりにはスマホで海外サッカーのハイライトを見たり、情報番組でプロ野球の結果を追いかけていたりしていました。また、睡眠時間に関しては短くとも5時間程度は取るようにしていました。徹夜をしても、眠気を押し殺しながら行う勉強の効率はかなり低い上、翌日の体調にも支障をきたすのでなるべく寝るように意識しましょう。

将来の展望

商学部といえば三大難関資格の一つ「公認会計士」だろうと思い、2年後の会計士試験を見据えてダブルスクールを始めました。私はオンライン受講生で、ある程度自由に受講できますが、それでも標準スケジュール表で課せられる講義数がかかり多く、復習にも長時間を割く必要があるため苦労しています。ただ、自分でやると決めたことなので合格するまでやり切ろうと思っています。

入学後の感想

一橋大学の1コマは105分と長いですが、各学期ごとに上限コマ数が設定されているため、結果的に1~6限まで授業があった高校時代よりも自由時間が増えます。この時間を何に費やすかは人それぞれですが、ぜひサークルや部活、委員会活動、勉強など自分のやりたいことに有意義に使い、大学生活において誇れることを作りましょう。人はある程度忙しくないと次第に堕落していき、最低限やるべきことも怠けるようになるので、注意が必要です。

好きな言葉

代打逆転サヨナラ満塁
優勝決定ホームラン

Kさんの1年次時間割(春学期)

	月	火	水	木	金
1		線形代数 I			導入ゼミナール I
2		経営学入門		微分積分 I	会計学入門
3				ビジネス・エコノミクス入門	
4	PACE (英語)				
5			PACE (英語)		英語ライティング (発展)
6					
他*	自然科学史 (東洋)				

※オンデマンド講義で、時限指定のないもの

学部講義紹介

「経営学入門」

商学部の1年生は導入講義科目として、経営学入門、ビジネス・エコノミクス入門、会計学入門、マーケティング入門、金融入門を学びます。これらの中で今回紹介するのは経営学入門です。この授業では企業経営に関するさまざまな現象を読解する力を養うことが目標とされ、今年是有名企業のCMOや公的機関の職員による講演会も行われました。最も商学部らしさを感じるののできる講義だと思っています。

「導入ゼミナール I」

商学部では1年次からゼミナールに参加することになっており、春夏学期に所属するゼミナールはランダムに割り当てられます。私が所属したゼミナールでは、教授が指定した本を事前に読み、それをまとめたレジュメでグループディスカッションを行いました。論理的で説得力のあるプレゼンテーションを行う力が身につきます。受講者はそれぞれ異なる知見を持っているため、非常に刺激になる講義です。

学部紹介

Introduction of Faculties

経済学部 Yさん

志望動機

一橋大学を志望した一番の理由は、家に近いということです。当時の僕は大学に興味がなく、オープンキャンパスや学園祭にも行っていませんでした。そのため、一橋大学に特別な思い入れはありませんでしたが、東京一工の優秀さと、それらの学校群の生涯年収が高いことを知り、さらに家から近いことに魅力を感じて志望しました。

受験期を振り返って

受験期は今までやっていた色々なことをやめていくことが大変でした。まず、スマホの使用時間を減らすためにスマホから全てのゲームを削除し、またSNSの見すぎを避けるためにX (Twitter)のアカウントも削除しました。さらに、日常的に見ていたプロ麻雀リーグであるMリーグの視聴も、勉強のためにやめました。しかし、完全に勉強にシフトしきることは精神的にできなかったため、好きなサッカーチームの試合観戦だけは続けました。実際3,4時間程度の休息は成績にもほぼ影響しないうえ、精神的満足感も得られるのでおすすめです。適度な休憩をはさむと勉強がはかどると思います。これらの工夫で、集中して受験勉強に取り組みました。

将来の展望

資格を取ろうとは思っていませんが、とりあえず大学を4年で卒業して年収の高い会社に入れたら良いなと思っています。自分の能力的に高いワーキングメモリーを要する仕事は向いていないように思えるので、自分の苦手を露呈させない職種で働きたいです。人生がドン詰まってしまったいざというときは、麻雀プロの認定試験をうけてプロ雀士としてのびのびと生きていく予定です(笑)

入学後の感想

大学に入ってみてあまりの暇さに驚きました。もちろん、学期ごとに試験があったり定期的に課題が課されたりするなど忙しい時期自体はあるものの、毎日8時に登校して5コマ授業を受けていた高校時代と比較すると大したものではないように思えます。大学に入ってから部活やサークルなどの活動に精力的に参加しないと時間だけが無駄に溶けていくと思います。これと決めた団体にはまじめに向き合い一生懸命やるようにしましょう。

好きな言葉

嶺上開花・海底撈月・溜めロン

Yさんの1年次時間割(春学期)

	月	火	水	木	金
1	経済学入門			経済学入門	
2	教養ゼミナール			線形代数 I	
3		微分積分 I		英語(LL)II	
4		日本文化論		PACE (英語)	
5		PACE (英語)			
6					
他 [*]	経済史入門				

※オンデマンド講義で、時限指定のないもの

学部講義紹介

「経済学入門」

経済学入門は経済学の基礎を学ぶ必修科目です。内容はゲーム理論、ミクロ経済学、マクロ経済学の3つに分かれています。評価基準は主に課題と演習問題です。経済学は高校でも扱う科目ではありますが、大学ではそれをさらに発展させ、個人レベルから社会レベルにまで視野を広げて経済を分析します。その準備段階として、この授業では基本的な経済理論や経済モデルを身近な例を用いて学びます。

「微分積分I」

微分積分Iは必修科目ではないものの、経済学部で単位取得が必須の数学科目の一つです。微分積分は高校数学でも扱うと思いますが、大学数学では三角関数を微分するなど、扱う関数の幅が広がり、難易度が上がります。経済学で扱う経済モデルはほとんどが数式で表され、経済現象を深く理解するためにはその分析を正確に行う必要があります。それを可能にするツールとして微分積分は重要です。

学部紹介

Introduction of Faculties

法学部 Mさん

志望動機

最難関国公立大学の一つでありながらも依然としてその一般的知名度は低いという“知る人ぞ知る”感に惹かれて興味を抱きました。また、大学自体も東京の中心から少し外れた所に立地しているため勉強に集中できる環境が整っており、国立の人や街と結びつきが強い学校であるという3点に魅力を感じたので、一橋大学を志望しました。

入学後の感想

高校までとは異なり、時間割を自らで作成し授業を受ける生活に慣れるのが大変でした。ただ、人によって時間割が異なるので授業ごとに新しい友達が作れ、交友関係が広がりやすと感じました。さらに学部内でも法曹を目指す人や国際関係を学ぶ人などがおり多様な考えに触れることができました。また、大学の講義の中で、学部科目は能動的に授業参加・学習に励む必要があると思いました。授業がない空きコマでは溜まっている課題を進めるなど時間を有効活用しています。

好きな言葉

なるようになるさ

受験期を振り返って

睡眠時間、食事の時間などの時間以外はほぼ勉強時間に充てていました。そのため質の良い睡眠や健康的な食事を摂ること、さらに友人との会話などで気分転換をしていました。携帯電話は受験生にとって時間の浪費が激しいため、1日平均30分を目安に制限していました。受験期の生活は平常心を保って黙々と勉強を続けることが大切ですが、実際には常に不安や緊張が織り交ざり、模試の結果で一喜一憂してしまい、完全に勉強に集中しきるのが難しい時期もありました。しかし志望校に合格してこの上ない喜びを味わいたいと何度も自分を奮い立たせていたので、合格だとわかった瞬間には最高の喜びと安堵が押し寄せ、頑張った良かったと思えました。

将来の展望

今後大学では労働法について深く学びたいと思っています。将来自分が会社員になった時の武器を手にしたということもさることながら、昨今の労働環境改善の風潮や働き方改革推進の流れを経て、労働環境に悩みを抱える方々の力になればと思っています。法曹を目指したいと思っただけではないですが、漠然と大学時代に学んだ法律を活かせる仕事をしたいと考えています。

Mさんの1年次時間割(春学期)

	月	火	水	木	金
1		英語(LL)II			
2	法と社会	経営学入門		法と社会	経済学入門
3		実定法と社会			実定法と社会
4	PACE (英語)				ドイツ語初級 (総合)
5		ドイツ語初級 (総合)	PACE (英語)		
6					
他 [*]					

※オンデマンド講義で、時限指定のないもの

学部講義紹介

「法と社会」

法制史や比較法学、法哲学などといったさまざまな法研究分野についてオムニバス形式の講義を受けることができます。この講義では、そもそもなぜ法が社会において妥当であるとされているのかについて、上記の学問を通して広く学ぶことができます。法学部の学部導入科目に位置づけられており、法学部の生徒がこれから法というものの在り方を学んでいくことの下地となるとも重要な講義となっています。

「実定法と社会」

憲法や民法、刑法など皆さんが法律と聞いて個別具体的な名称を思い浮かべるもののおよそ全般である実定法について、一橋で教鞭を取られている専門家の方々が研究分野に関する講義をしてくださいます。この講義は「法と社会」と同様、法曹コースを目指す方々にとって必修の講義となっていますが、法律の基礎を広く学習できる点で、全ての法学部生にとって重要な講義となっています。

学部紹介

Introduction of Faculties

社会学部 Uさん

志望動機

一橋に興味をもったきっかけは、高1の冬に高校で行われた卒業生による大学紹介です。そこで社会学部の先輩の話聞き、社会学部で学べる分野の広さに強く惹かれました。また、高3の春にキャンパスを訪れた際に、歴史ある大学の建物やキャンパス内の様子を見て、その和やかな大学の雰囲気の魅力を感じ、一橋を志望しました。

入学後の感想

一橋に入って感じたことは、多くの学生がこの大学で目標や夢をもって勉強していることです。一橋は年末に冬学期が終わるため春休みが特に長く、その期間に留学や語学研修に行きたいと考える人も多いです。また、その他にもさまざまなプログラムがあり、それに参加することを目標に勉強する学生も多くいるのが一橋の魅力の一つだと思います。高い目標やスキルを持つ友人や先輩と学ぶことは、とても良い刺激になっています。

好きな言葉

いのちいっぱい自分の花を

受験期を振り返って

特に意識したことは、生活リズムを崩さないことです。夜遅くまでの勉強はできるだけ避け、朝早く登校して人の少ない教室で勉強するなど、朝型の勉強習慣を身につけるよう心掛けました。初めは早起きして学校に行くのは大変ですが、慣れてくると朝の時間を有意義に使うことができるので、朝型の生活は本当におすすめです。また、1人で自習室にこもって勉強するよりも、友人と教室で勉強するようにしていました。友人が近くで頑張っていることで、自分のモチベーションを上げたり、疲れた時はおしゃべりをして息抜きしたりすることができました。ただし、私は休憩のつもりで話し始めて3時間ほど経ってしまったこともあったので注意が必要です。

将来の展望

私は将来テレビ局員などメディア系の職業につきたいと考えています。そのために、大学ではジャーナリズムやメディア論の講義を受け、これからのメディアの役割や課題について学びたいと考えています。また、より広い視野をもって社会問題を考えられるように、他学部の授業も積極的に参加していきたいです。勉強以外の面では、バイトやサークル活動を通してさまざまな経験を積んでいきたいです。

Uさんの1年次時間割(春学期)

	月	火	水	木	金
1		憲法(他学部)			
2		導入ゼミナール			教養ゼミナール
3	フランス語初級(総合)			フランス語初級(総合)	
4	PACE(英語)			情報リテラシー	
5			PACE(英語)		
6					

他 [*]	社会科学概論 I	社会研究の世界			
----------------	----------	---------	--	--	--

※オンデマンド講義で、時限指定のないもの

学部講義紹介

「社会研究の世界」

この授業では歴史学や社会心理学、政治学といった社会学部で専門的に学ぶことができる学問分野を計13回のオムニバス形式の授業で知ることができます。各回の授業では一橋の教授の方がその分野で研究していることや、その分野自体の歴史を学びます。この授業を受けて興味を持った分野を2年次以降に専門的に学ぶことができ、社会学部への入門としての役割を果たしていると思います。

「社会科学概論 I」

この授業は1年生の春学期の必修授業で、社会学のどの分野においても重要な、社会を研究するための理論と方法を学ぶことができます。例えば、あるテーマを調べるためにはどの手法を用いて社会を研究すればいいかなどを学びます。オンデマンド形式で、レポートによって評価されますが字数は担当する教授によって変わります。他の授業と比べて想像していた大学の授業のイメージに最も近かったです。

学部紹介

Introduction of Faculties

SDS 学部 Hさん

志望動機

もともと経済学系の学部を志望していて独学でデータサイエンスについても詳しく学ぼうと思っていましたが、高3の冬に通っていた塾の校長からSDS学部の存在を教わり、「ここしかない」と思い志望しました。社会科学とデータサイエンスの融合を掲げる日本で唯一の学部としての特別感も受験のモチベーションになっていたと思います。

入学後の感想

SDSは他学部と違って必修の授業が多く、人数も少ないので全員で授業を受けます。そのため学部内での友人が他学部よりもできやすいです！また、高校までと違ってずっと時間割が詰まっているわけではないので、サークルやバイトなど自分のやりたいことにも十分時間を割くことができます。大学の授業はいきなり難易度が跳ね上がることが多いので必死に追いかけることも多いですが、自分の興味がある分野を能動的に学ぶことができます。

好きな言葉

不言実行

受験期を振り返って

英語が非常に苦手だったので、共通テストと数学で合格点を全て稼ぎきるくらいの気概で二次試験の数学の対策に注力していました。特に共通テスト後は過去20年分の数学を周回し、試験直前には夢の中で数学を解こうとして目が覚める不眠症になるほどでした。常に強迫観念に襲われていたので、メリハリをつけるため塾以外では勉強せずに学校でも友人と遊んでストレスを発散していました。また、夕食だけはちょっと歩いて美味しい店を探しに行くなど休憩時間で楽しみを見つけて勉強へのモチベーションを保つようにしていました。受験期の休憩は罪悪感が生じると思いますが、根を詰めすぎず疲れたら休むのも学習効率を維持するために大事だと思います。

将来の展望

SDS学部は入ってから他4学部の内容を学んで興味がある分野を選択することができ、自分は商学部の分野に興味を持ったので今後は主にマーケティング系の分野を発展的に学びたいと思っています。まだまだ初歩の段階なので学ぶことは多いですが、将来的にはデータサイエンスを駆使しながらマーケティングについてより深く社会の中で関わるような職業につきたいと考えています。

Hさんの1年次時間割(春学期)

	月	火	水	木	金
1	SDS入門 I			情報リテラシー	AI入門
2	社会科学入門 (法学)	線形代数 I		社会科学入門 (法学)	微分積分 I
3			PACE (英語)		英語 II (資格試験)
4					PACE (英語)
5					
6					
他*	社会科学入門 (経営学)	社会科学入門 (社会学)			

※オンデマンド講義で、時限指定のないもの

学部講義紹介

「ソーシャル・データサイエンス入門 I」

この授業はソーシャル・データサイエンス(以下SDS)学部生の1年次の必修授業です。SDSとは何か、SDSを研究することがどういう効果を生み出すのかについて学びます。春夏学期の最後にはグループに分かれて、1つの社会課題について解決法まで考えてそれをプレゼンし、レポートにまとめるという授業があります。月曜1限の授業で大変ですが、みんな出席しています。

「AI入門」

この授業ではプログラミング言語であるPythonの基礎文法や関数の使い方について学んだのち、大量のデータを用いて予測を行う統計的機械学習について、実際にAIを作成、改良しながら学びます。SDS学部の必修科目ですが全学共通教育科目というくりになっており、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定されています。